

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

和歌山県有田市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	11	対象	ド訓	救 感 災 輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
28,740	14,675	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 方…ガン（放射線）診療

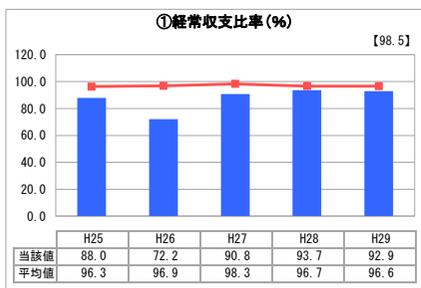
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
153	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	157
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
153	-	153

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

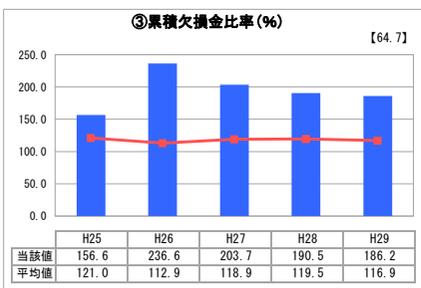
## 1. 経営の健全性・効率性



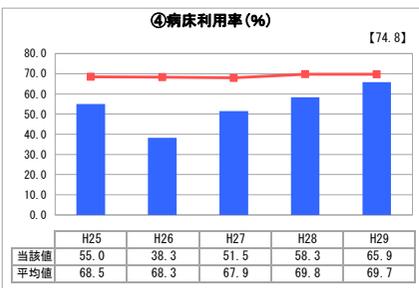
「経常損益」



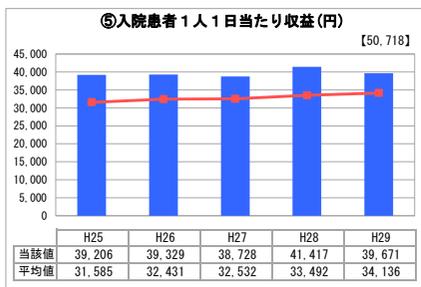
「医業損益」



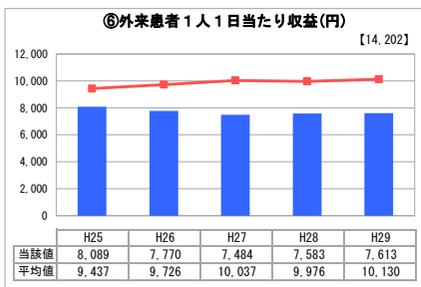
「累積欠損」



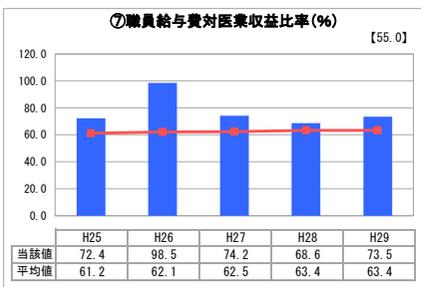
「施設の効率性」



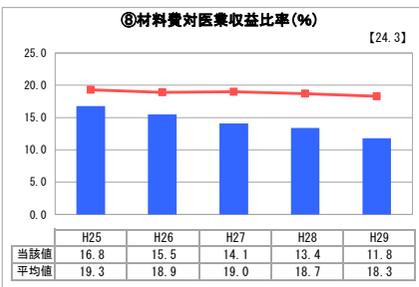
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

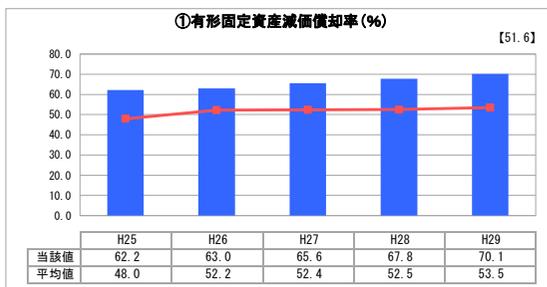


「費用の効率性①」

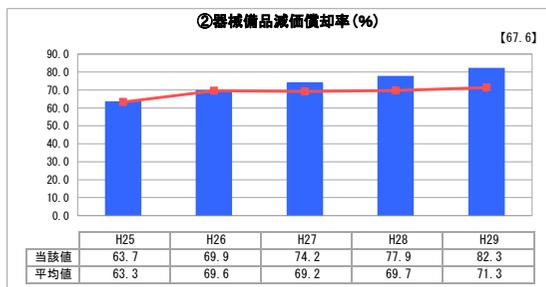


「費用の効率性②」

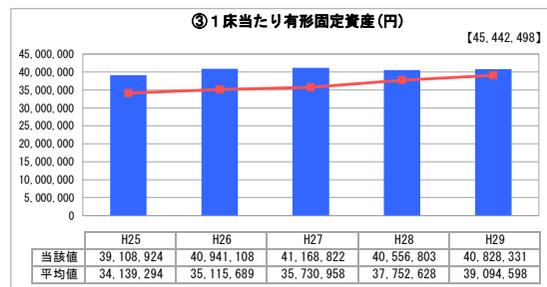
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

有田保健医療圏における2次救急の中核的な役割を担っている。  
 災害時には災害拠点病院として、多数の患者の受入を行うなど災害医療の中心的な役割を担う。  
 平成29年度より産婦人科常勤医師を1名確保し、同年5月から分娩を再開。小児科常勤医師1名についても同年度に確保し周産期医療の充実に努めている。  
 平成29年7月に一般病床54床を地域包括ケア病床に転換。地域包括ケアシステムの中核病院としての役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成25年度以降、経常収支は赤字となっており、早期の経営改善が必要な状況となっている。  
 平成27年度以降は、医師確保や救急強化などの取り組みの成果が徐々に現れ、毎年度において増益、増収が図られてきたが、平成29年度は、医療スタッフ強化に起因した給与費を中心とした医業費用の増加が収益の増加を上回り、経常収支は前年度と比較し、若干の悪化となった。  
 今後においても、公立病院としての使命である救急、周産期医療などの不採算科目の充実に従事することを基本としながらも、経営改善のための取り組みを継続することで経常収支比率の改善を図る。  
 また、累積欠損金の解消を図り、財務状況の健全化にも取り組んでいく。

### 2. 老朽化の状況について

昭和25年に開設以来、地域の医療ニーズに合わせ増築を行い現在に至る。直近では平成3年から平成6年にかけて大増築工事を行ったが、現在は建物の老朽化がかなり進んでいる状況となっている。  
 また、経営改善の道半ばの状況においては、医療機器等への投資は、採算性、緊急性を十分考慮したうえで進めている。それらの影響で有形固定資産全体の老朽化率は全国平均に比べ高い状況となっている。  
 今後も、地域の医療需要にあった設備投資を計画的に行い、経営の改善に努めていく。

### 全体総括

29年度決算における経常収支は前年度と比較して悪化した。これまでの増収対策の効果が確実に現れ、増収へと繋がっている。  
 今後においても、これまでの取り組みを継続し、増益による医業収支の改善を図る。  
 費用面においては、材料費の削減、委託業務の見直しなどによる経費削減を図り、収支の改善に取り組んでいく。  
 設備、機器への投資については、利用者の安全性、利便性を重視するとともに、採算性を十分考慮して進んでいく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。